

ドイツ連邦食糧・農業省 最新農林漁業情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 14  
2018・9・15

1 森林は全ドイツ人を感動させる (2018・9・3)

ー 2018ドイツ森林デー ー

林業組織とスポーツ連盟は、9月13日から16日まで共同で連邦全域での行動日に、国民を森林に招く。ドイツでは年間を通じて毎年200万人以上の人々が、森林を訪れている。特に今年は9月の第2週末に、多くなるだろう。これは連邦全域でのドイツ森林デーが、開催されるからである。

連邦食糧・農業大臣クレックナーは説明した：“森林は全ての人々を感動させる！森林はドイツ最大の体験ースポーツエリアだけでなく、農村地域の人々の収入と就業の場でもある。そして我々の気象を守り、多くの動植物の故郷でもある。”連邦食糧・農業省のイニシアチブとドイツオリンピックスポーツ連盟(DOSB)、ドイツ林業協会(DFWR)の協力で、スポーツマンと共に森林所有者、林業専門家(営林署員など)を森林に招く。

ドイツ全域で100のイベントが開催され、そこで「森林で感動を」をモットーにしたプログラムで、スポーツ活動と情報入手ができる。ドイツ森林デーは、ドイツで最大規模の体験ースポーツエリアにおける、互いの理解と思いやりのために寄与している。2018年9月13日から16日まで、国民が森林所有者と林業専門家と一緒に、積極的に体験し対話を行うことができる。この対話は私にとって非常に大切なものである”と、クレックナーは続けた。

”森林は自らの機能を満たすことができる。なぜならば、営林署員は日々森に関与し、森林を所有者とともに持続的に管理しているからである。”スポーツ活動と保養の探求は、森林デーに際して森林を動植物の生存空間と農村の就業の場として、知ることとなる。同時にスポーツマンは、スポーツ空間として森林に対して自らの欲求を実現する。

積極的な健康増進のための森林効果を、活動的に体験可能とするために、組織的なスポーツ団体、林業専門家と森林所有者が全国において、共同で多くの活動と関連イベントを実施すべきである。例えば、自転車体験デー、弓射撃会、ランニング大会、森林オリンピック大会、乗馬森林散歩、ジオキャッシング（森林のゴミ拾いとジョキングの組み合わせ）など。林業専門家は森についての情報を提供し、そして自らの仕事の中で身近にある関心事について説明する。

2018 ドイツ森林デーはそのような対話を奨励し、様々な余暇活動を行う人々の相互理解と思いやりを促す。森林を職業上利用する人々のためにも。連邦食糧・農業大臣クレクナーは、2018 ドイツ森林デーへの訪問を、全ての主催者を代表して国民を招待する。”全ドイツでの多くの関連イベントに、心からご招待する。スポーツ活動、林業家との交流と情報入手に、この機会を活用してほしい。私は皆さんの参加を、今週末の森林デーのみならず感謝する。”

#### 2018 ドイツ森林デー

連邦食糧・農業省のイニシアチブとドイツオリンピックスポーツ連盟、そしてドイツ林業協会との共同でもって、2018 ドイツ森林デーが9月13日から16日まで開催される。「森林が感動を」のモットーのもとに、スポーツ、保養そして健康を中心に据えている。国民は森林所有者と林業専門家から、ドイツ全域の森林における地域的なイベントに招かれる。2018 ドイツ森林デーでもって、林業、スポーツそして公開での対話をスタートさせる。

その際、双方の理解と思いやりが重要である。なぜならば、「ドイツの最も大きな体験エリア」としての、森林が活用されることは自明のことではないからである。2018 ドイツ森林デーのような林業分野とスポーツ団体の参画は、世界スポーツ運動に組み込まれている。ドイツオリンピックスポーツ連盟とドイツ林業協会は、林業—スポーツサイドの関係者の信頼のおける共同活動と、堅固なネットワークに貢献している。

#### 2 ドイツは殺虫剤・ネオニコチノイドを使用禁止に (2018・8・31)

連邦消費者保護・食料安全庁 (BVL) が、2018年9月18日に、ネオンコチノイド系農薬の認可を取り消す。長く続く干ばつと極端な暑さは、森林と林業にも影響をもたらしている。植木の大部分は枯死した。その上、森林は年を越えて影響する長期の被害に苦しむこととなる。

8月27日にEU-同盟の「作物・家畜・食料そして飼料常設委員会(SCoPAFF)」が、3つのネオニコチノイド系の作用物質、つまりクロチアニジン(Clothianidin)、イミダクロプロッド(Imidacloprid)、チアメトキサム(Thiamethoxam)の3つ薬剤の使用禁止にドイツは合意した。EU-委員会のこれに関連した施行令は、2018年6月19日に発効した。

これに関して政務次官ハンス ヨアヒムは説明した：“連邦消費者保護・食料安全庁(BVL)は、ミツバチなど授粉昆虫保護のために次のステップを踏み出した。もはや使用できない農薬の認可を2018年9月18日に取り消す。これはつまり12月19日からこれら成分を含んだ作用物質を、もはや購入、使用することはできない。その後、2019年3月末までにEUから輸出するビートの種の処置のみ可能である。勿論、これらの輸出先の国において使用する農薬に、認められている限りにおいて。同時に備蓄もまた適切に使用されねばならない”

## 背 景

EU-同盟において温室での使用は可能である。なぜならば、露地では授粉昆虫へのリスクが、排除できないからである。EUの決定は、ドイツにおいて連邦消費者保護・食料安全庁が、国内認可を実施する。同時に連邦食料・農業省(BMEL)のこの農薬の使用に係る指針を継続する。

### 3 今年度の林業における被害は甚大である (2018・8・30)

長期間にわたる干ばつと極端な暑さ、昆虫被害と暴風被害は、森林と林業にも大きな影響を及ぼしている。植林の大部分は枯死している。その上、森林は1年後に影響を蒙るなど、長期間の被害に苦しめられる。政務次官 Dr.ヘルマン オンコ エイケンス (Dr.Hdrmann Onko Aeikens) が、これについて説明した：

”我々は森林の被害を、大きな懸念をもって注視している。この被害は、勿論まだ正確に評価・分析されてない。特に昆虫による喰害と成長遅延が、全体的な被害規模の中で、この後の時点で示されるだろう。だがしかし、既に植樹と苗木の大部分が枯死している。昆虫が針葉樹の樹皮に卵を産むことによって、著しい被害が多く地域ではっきりと認められる。この干ばつは森林に対して来年もまた否定的な影響をもたらす。今年と来年の気象推移が、重要な役割を演ずる。”

暴風と樹木の大量枯死（つまり、森林火災、害虫、雹、嵐または似たように引き起こされた被害）によってもたらされた被害量は、木材の販売に困難を増している。昆虫と樹木の病気もまた、干ばつと暑さに誘引されている。例えば、キクイムシと暑さで良く生育するキノコによって引き起こされる、スクレロデリス枝枯病の影響はまだ評価できない。このような事態に直面して林業の状況もまた、9月にノルトラインーヴェストファーレン州で開催される、連邦一州農業大臣会議（AMK）のテーマとなる。

”我々は各州と共同で気象変動に対して、森林と林業を対応させる今の奨励政策並びに気象変動の影響克服に際しての支援が、十分かどうか検討し、場合によってはそれを拡大しなければならない”と、政務次官エイケンスが述べた。

## 背 景

森林を気象変動に適応させ、そして林業と木材の分野における適切な気象保護政策を可能とさせるために、連邦と州はすでに多様な政策を、共通課題「農業構造と海岸保全の改善（GAK）」並びに森林基金の分野において奨励している。GAKの奨励原則は、今生じている被害に遭遇している経営に対して、林道建設、貯木場の施設並びに被害に遭った林地の再植林を支援する。その前提条件は、各州がこの政策を自らの指針に基づいて実施することである。

さらに林業経営は（農業経営と同じように）、税務署において税の支払い猶予一そして軽減を申告できる。同じく社会保険の負担金軽減も可能である。ドイツの国土の1/3が森林によって覆われている。森林の半分弱が民有林であり、のこりは各州と連邦の所有である。

2018・9・10 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
----------------------------------